

2024年度 光塩日野幼稚園 学校評価報告書

2025年3月
(学) 光塩女子学園 光塩日野幼稚園

1. 本園の教育目標

- ・一人ひとりが神様から与えられた大切な存在であることを知り、神様に守られていることに感謝する子ども
- ・思いやりのある、素直であたたかい心の子ども
- ・笑顔ですすんであいさつができる礼儀正しい子ども

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画・実施した内容

<重点目標>

- ①地域の小学校との連携や施設との繋がりを持ち、地域社会への開放行事を行う
- ②発達の違いやかな子どもへの対応を、引き続き充実させる
- ③非常勤職員との情報共有と連携を強化する

<計画>

- ①幼稚園イベントの地域への開放、公立小学校での交流体験の実施
- ②一人ひとりの成長の把握と寄りそった保育、補助職員の配置、支援センターと保護者との連携、専門的研修の受講
- ③日々の保育計画内容・子どもの様子を共有

<実施した内容>

- ①幼稚園イベントの地域への開放・地域イベント(夏祭り・作品展・説明会)への参加
- ②補助職員の配置・職員全体での情報共有・把握、支援センター・専門家への相談・連携、研修会受講
- ③職員会議の内容(保育計画・連絡事項)、議事録(子どもの様子に関する共有項目)をいつでも見られるように改善に取り組んだ。保育前後に情報共有をしている。

3. 評価項目に対する自己評価と取り組み状況、学校関係者評価 (★:課題)

【評価点】 A=十分達成されている B=達成されている C=取り組まれているが、成果が十分でない D=取り組みが不十分である

評価項目	評価内容	自己評価		学校関係者評価	
		評価点	取り組み状況・反省・改善点等	評価点	意見等
1 保育の計画性	①園の教育理念 教育目標に基づいて、 保育の計画を立てているか ②指導計画は、幼児の実態や 周囲の状況の変化に対応できる ような、順応性のあるものに しているか	A	①・年間・2カ月案・週案で、カリキュラムを 作成し、計画的に保育を行っている。 ②・子どもの成長に合わせ、必要に応じて、 保育者同士で話し合いカリキュラムの 見直し・修正を行っている。	A	・必要に応じてカリキュラムの見直しや修正を行っている。 ・子どもたちの発達に合わせた保育内容を行っている。 ・計画外の事象が出た時にも柔軟に対応できている。
2 保育の在り方 幼児への対応	①園全体として、個々の幼児の 課題や発達について、保育者 同士、情報を共有したり、 家庭との連携がとれているか ②幼児にとって、安全で安心して 過ごすことができる環境を整え、 1人ひとりありのままの姿を 受け入れ、適切なかかわりが できているか	A	①・朝礼や会議で、その都度子どもの様子など 必要な情報を丁寧に、共有・把握している。 ②・クラス関係なく、保育者同士で協力・連携 している。 ・特別な配慮を要する子も含め、担任を中心に、 一人ひとりにあった保育を行っている。 ・毎日登園時の検温表チェックと、1日を 通して体調を確認している。	A	・専門家の継続的な関りにより、配慮の必要な子どもへの 関わり方をはじめ、深い幼児理解に基づき、 学び実践している。 ・思いやりの心子どもたちが学べるように発達や個性の 理解、子どもの不安や心配を取り除く保育を保護者と 連携しながら行っている。 ・非常勤が増え、情報共有が今までより困難になったことへ、 対策ができています。
3 保育者としての 資質と能力	①保育者としての在り方を理解し、 幼児の成長を自分の喜びと 感じながら保育ができていますか ②教職員全員で一つのチームで あることを自覚しているか	A	①・子どもの成長を第一に考えながら楽しんで 保育を行っている。 ・子どもと保護者には、常に公平な対応を とっている。 ②・教職員全員で共有して、幼稚園全体で 子どもたちを見守っている。 ★一人一人が意見を述べる場と時間を 設けられるように意識していく。	A	・同じ目標に向かって職員同士の連携が十分にとれている。 ・子どもたちの成長を見守り、楽しみながら 保育できている。 ・変化によく気が付き、職員同士で意見交換がしやすい 環境を作ろうと心がけている。 ★まれに、連携が不十分な事象が発生することがある。 可能な限り漏れがないように対応していくとよい。
4 保護者への対応	①保護者に対して、適切な 情報発信・幼児の様子を 伝える工夫をしているか ②保護者が相談しやすい環境を 整えているか、また、相談や 要望には丁寧に対応しているか	A	①★HP・ブログ・インスタグラムを通して、園の 情報を発信することが限られた職員のみとなった。 ・保護者の要望に応え、1週間給食の写真を インスタグラムに掲載している。 ・毎月の園だよりや学期毎の学年だより、 懇談会・保護者面談等で子どもの様子を 伝えている。 ・出席カードには毎月担任から子どもに対して コメントしている。 ・参観の回数を増やし、体操や英語指導の参観も 実施した。 ②・保護者の相談には連絡帳を活用し、必要に 応じて電話や、個別面談をしている。 ・保護者アンケートを実施している。	A	・保護者も多様化している中で、保護者の意見に耳を傾け、 寄り添う姿勢を感じられている。 ・情報発信に対して、限られた人数で取り組み、 内容に關しても工夫と改善が見られている。 ★今後は保護者のニーズに合わせた内容を さらに発信できるよう、担当職員の配置を検討しては どうか。

評価項目	評価内容	自己評価		学校関係者評価		
		評価点	取り組み状況・反省・改善点等	評価点	意見等	
5	地域の自然や社会とのかわり	①地域社会の中で、幼稚園として子育て支援などの役割・使命を果たしているか	B	①・在園児に向けては、預かり保育・4年保育など子育て支援を充実させている。 ・日野市から派遣される、臨床心理士による、保護者向けの子育て相談会を実施している。秋まつりなどのイベントには、一般に向けても開放した。(卒園生も招待) ・これまで同期会(1年生のみ)だった所、同窓会を(2・4・6…偶数年卒園生)開催し交流の場を設けた。 ・地域のイベント(夏祭り)に参加し、地域との交流を広げた。 地域の中学校や姉妹校からの職場体験を受け入れた。	B	・地域とのつながりとして、児童と園児の交流が実現できることは、幼少連携の第一歩。 ・今年度から開催した同窓会では卒園生、クリスマスイベントなどの各イベントでは地域との交流、連携を十分に行うことができています。 ★小学校との連携は保護者の要望も高く、さらなる幼小連携を実現するために継続した関わりを持ってほしい。
	②小学校と連携はできているか		②・小学校からの就学前聞き取り調査に対応している。 地域の小学校と連携して、学校体験を計画した。			
6	研修と研究	①保育に活かすための研修・研究を行っているか	A	①・日野市の研修への参加や、姉妹園と合同研修・交流研修・新任研修を実施した。臨床心理士による、専門的な研修を受講。	A	・市や姉妹園との研修など様々な研修に参加し、知識を深め、取り組みに工夫が見られる。 ★経験年数に応じた内容など、外部の様々な研修にも参加し続けることが必要と感ずる。 ★園全体・個々・カトリックなどに関することなど整理して、計画を立て継続的な学びができるようにすること。
	②自分の保育について、評価・反省を行っているか		②・自己評価・学校関係者評価を通して、自らの保育の振り返りを行った。 ・園長との面談を通して、自己評価に基づいた自らの保育への振り返りをした。			
7	幼稚園の特色・取り組み	①【カトリック幼稚園として】一人ひとりが、かけがえのない大切な存在であるという、カトリックの教えに基づいた保育が行われているか	A	①・朝の会・帰りの会、食事の前など日常的にお祈りの時間を設けている。 ・マリア祭、七五三、クリスマス会などの宗教行事を実施。 ・マリア祭、七五三には、希望する保護者にも参加していただいた。(各40名程) ・神父様による保護者のための聖書クラス開講。シスターによる宗教の時間、担任による宗教の時間を実施した。	A	・教会行事への保護者参加率が高くなり、保護者対象の聖書クラスが定着し参加人数も増えている。 ・保護者のカトリックへの理解が深まりつつあり定着していくとよい。 ★クリスマス献金などへの協力に関して、家庭の考え方も様々なので、保護者に丁寧な説明があると理解が得られやすい。 ・日々の保育の中での活動は、園児の成長にかけがえのない経験となっている。 ・内容に関して、全職員が共有できるものになるとさらによいと感じる。 ・わくわくの森整備に関して、職員の負担軽減された。 ★イベント時のわくわくの森の開放について、専門家の意見などを参考に、保護者も一緒に楽しめるような体験ができたらしい。 ・日々のメニューボードに、「献立・食材」をイラスト入りで表示することで園児や送迎の保護者が興味・関心を持つようになった。 ・安全を第一に考慮したタイミングで、バス停の追加をするなど安全対策に関して配慮されている。 ★幼稚園の特色や取り組んでいる内容など、4月の全体保護者や園だよりなどで丁寧な発信をしていくと、幼稚園への理解・協力が得られやすい。
	②【豊かな自然環境】わくわくの森など、自然を活用した保育・行事が行われているか	②・山のカリキュラムを作成し、森での活動を計画的に行った。 ・森の整備体制について、ボーイスカウトの協力、用務員により、教職員の負担が軽減された。 ・すくわくプログラムとして年間の中で畑やわくわくの森の活動を計画し実行した。(野菜栽培、山イベント、姉妹園との交流など)				
	③【手作り給食・食育】給食や食育を通して、食に関する学びを子どもたちに伝えられているか	③・自園調理の給食を週4日提供。 ・管理栄養士を配置し、アレルギー対応について保護者と個別に面談している。 ・給食の献立に各国のメニューを取り入れ、外国に興味を持つようになった。 ・園内の畑で野菜を育て、収穫した野菜を給食に取り入れた。 ・給食職員のメニューボードを通して、食に対する興味を持つようになった。				
	④【スクールバス】スクールバスを安全に運行できているか	④・バスマニュアルに基づいた、安全対策を徹底した。 ・スクールバスに、置き去り防止システムを活用し引き続き安全に努めている。 ・れんらくアプリで、バスの運行状況がリアルタイムで把握できるようになっている。				

4. 総合的な評価結果 【評価点】 A=十分達成されている B=達成されている C=取り組まれているが、成果が十分でない D=取り組みが不十分である

評価	理由
A	☆幼稚園の特色である「カトリック教育」・「豊かな自然環境」・「手作り給食」に関して、高い評価を受けた。 ☆地域との繋がりと「近隣の小学校との交流」・「市内のまつりに出店参加」・「同窓会開催」を行い、様々な交流を持つことができた。 ☆園児の成長変化などを全教職員で共有し、安全かつ健やかに成長できる保育を目指した。

5. 今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
1 発達に緩やかな子どもへの対応を充実させる	・園生活を安心して過ごすことができるよう、必要に応じてクラス・学年に補助・加配職員を配置する。 ・保育カウンセラーのアドバイスを受けながら、保護者・日野市発達教育支援センター等との連携をはかる。 ・専門的な研修会を受講し、学びを深める。
2 地域の小学校や地域社会との交流を充実させる	・近隣小学校との連携を継続し、小学校での体験や小学生との交流の機会をもつ。 ・市内で行われるイベントへの参加や、園で行うイベントを外部にも周知し交流を持てるようにする。
3 カトリック園としての取り組みを行う	・カトリック教育についての研修・学びを受け、担任による“神さまのおはなし”を実践する。 ・日頃の保育に聖歌を取り入れながら、神さまの存在や感謝する心を意識出来るようにする。